

高円寺地域の学校統廃合による小中一貫校計画

住民を盗撮、恫喝

→裁判資料で出てきた工事業者による住民を盗撮した写真。説明者席の2列目から隠し撮りされたことがわかります。



工事の遅れを
住民に責任転嫁!?

こんな学校づくりおかしくない!?

高円寺地域の学校統廃合による小中一貫校計画(裏面に概要記載)の新校舎工事をめぐり、区と工事業者が一体となり、近隣住民に対し、人権侵害行為などを繰り返しています。その内容とは…

工事業者が住民を

恫喝目的で訴える…!?

今年上旬、近隣住民は、地域の教育環境と住環境を脅かす同計画の見直しを求め、高円寺中の門前で「巨大校舎反対」などのプラカードを掲げる抗議行動を連日行っていました。この抗議行動に対し、工事業者は、「工事妨害」として、住民を訴えるという前代未聞の暴挙に出たのです。

この訴訟はまぎれもないスラップ訴訟(※)であり、抗議行動を行う住民への恫喝・弾圧行為です。

まさに共謀罪の先取り

住民を盗撮・監視する

人権侵害

さらに、工事業者はこの訴訟を起こす前提で、住民を隠し撮りしていた事実が明らかとなりました。住民が抗議行動を行う前の昨年12月に行われた工事に関する説明会で、訴えられた住民の様子

を撮影していたことが判明したので

す。これは肖像権やプライバシー権を蹂躪する人権侵害行為です。

加えて、工事業者は、この間抗議行動を行う住民を監視するために、学校の門前に監視カメラまで設置していました。住民が抗議し、取り外させましたが、工事業者が住民を監視、萎縮・威圧する暴挙に出たことは重大です。

工事業者の人権侵害行為

区が容認・擁護

日本共産党区議団は、工事業者が住民に対し、監視や盗撮、スラップ訴訟を起こすなどの行為を行っていることについて、区の認識を質してき

ました。

区は、「訴訟も撮影も、工事業者が必要と判断したものと認識している」と答弁。工事業者による一連の人権侵害行為を容認する驚くべき姿勢を示しました。区が主催する説明会で、人権侵害行為が行われていたことを問題ないとする区の姿勢は異常極まりないものです。

※スラップ(SLAPP)訴訟

スラップとは、Strategic Lawsuit Against Public Participation(住民の集団行動に対する戦略的な対抗訴訟)の頭文字をとった言葉です。

権力を持った企業や政府等が、権力を持たない弱者や個人に対し、恫喝的、報復的ないやがらせを目的として行う、通称恫喝訴訟ともいわれています。

住民に責任を擦り付ける区と工事業者の姿勢は言語道断！

工事遅延の理由を

住民に責任転嫁

杉並区教育委員会は、2019年4月に開校予定だった、高円寺地域の小中一貫校の開校を一年延期することを先日発表しました。

延期の理由について、工事業者から「工事妨害があり、工期内に完了できない」と言われたと説明し、住民に責任転嫁しています。しかし、これは事実と反するものです。

工事の遅延の原因は、東京都の建築安全条例に基づく建築確認が4ヶ月も遅れたことが最大の原因であり、住民とは何の関係もありません。

区の無責任な現場管理

工事業者が「工事妨害」として、いる住民による抗議行動は、高円寺中の門前などで「巨大校舎反対」というプラカードを掲げているだけの非暴力のアクションであり、「妨害」などではありません。

それを工事遅延のいいわけにし、区と工事業者が一体になり、住民に責任を押し付けることに一片の道理もありません。

区は、工事業者の工期延期の要請を妥当と判断したのですが、そもそも工事の管理責任を果たしているとはいえません。

※区による高円寺地域の小中一貫校

開校延期発表(要約)

- 現在、高円寺中学校校地において進めている新校舎の建設建築工事については、着工段階から4か月程度の遅れが生じた。
- その遅れを取り戻すため工事を進めてきたが、本年10月下旬に工事請負者から、「工事妨害があり、工期内に工事を完了することができない」と言われ、当初の平成31年2月28日までの工期を同年7月中旬まで延長したい旨の請求があった。
- この請求を受け、区と請負者間で協議した結果、請求内容を妥当なものとした。

この間区は、住民が抗議行動している現場には一切来ず、住民との対応を業者に丸投げしていました。

住民による「工事妨害」などなかったのに関わらず、現場に一切顔を出さなかった区が、業者の言い分を鵜呑みにし、工事遅延を住民のせいにするこの自体筋違いです。

高円寺地域の小中一貫校開校は延期ではなく白紙に戻し、住民と共に良い学校づくりを行うべきです。

◆◆◆ 高円寺地域の学校統廃合による小中一貫校計画 ◆◆◆

杉四小、杉八小を高円寺中に統廃合し小中一貫校にする計画。

環七沿いの決して広くない高円寺中の敷地に、3つの小中学校の児童・生徒を押しこめるため、校舎は南北約72m、東西約62m、高さはなんと約30mと高層大規模化します。オフィスビルだと7、8階、マンションだと10階建てに相当する高さです。

校庭も縮小され、北側配置となるため日照にも大きな影響を及ぼし、中学生が使用するにもかかわらず、一周120mのトラックしかひけません。校舎は環七とJRの線路に囲まれるため、大気汚染や騒音も多く、常に二重窓を閉め切りエアコン漬けの学校生活を送らなければなりません。

計画案に対するパブリックコメントでは、反対意見が7割を超え、説明会でも反対意見が多数。そうした声を無視し、できあがった計画は、区民の血税を建設経費として80億円費やしながら、子ども達の教育環境と近隣住民の住環境に甚大な影響を与える最悪なものとなっています。



新校舎のイメージ図(党区議団作成)